



発行 埼玉高等学校教職員組合

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-13-10

ヤギンタビル4F



教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojitu@maple.ocn.ne.jp

3年ぶりに通常開催！ 第34回定期大会報告

7月2日(土)武蔵浦和コミュニティセンターで埼玉高教組第34回定期大会が行われた。新型コロナウイルスの影響で一昨年度は中止、昨年度はZOOMとの併用で来場人数を限った開催であったため、今大会は3年ぶりの対面・制限無しでの開催である。

来賓として日教組総合政策局高校・大学部長の中谷正史さんにお越しいただき、感染対策を徹底したうえで、顔をつきあわせて様々に議論できた貴重な機会となった。ブラック校則やSOGI(ソジ)、免許更新制廃止のバスターとして当局が目論んでいる“新たな研修”等様々な議題が話し合われた。今回はその中で最も盛り上がったトピックを報告しよう。

代替教員の不足 未配置・未補充問題

「病休の代わりとなる臨任の教員が見つからず、安心して休むことができない教員がいる。現在は非常勤がついてなんとかやっているが、その収入は低く働いてくれる人などいるのだろうか」との、とある分会からの報告がきっかけとなり、代替教員の不足について意見交換が行われた。

この報告以降「代替教員が見つからず、免許のない大学4年生が情報の授業をしている」「20年前から教員が不足している状況は変わっていない」「専任の教員が病休となった教員の授業を分け合って担当している」等の様々な事例が出された。

教員の不足はこのところずっと叫ばれているが、ここまでひどい状況になっているとは本当に驚きである。また基本的に代替教員探しは各学校長の案件とされているようだが、教育条件整備は言うまでもなく行政の責任である。結局そこで勤務している教員のつながりを頼ったり、教員免許を持たない人

に特別免許を与え勤務してもらったり、各校に教育実習に来ていた人をお願いしたりすることしかできないほど、非常勤講師を配置する仕組みが整っていないのである。

教職離れは深刻な状況

日教組からの報告も驚嘆に値する。まずそもそも埼玉を含めた関東近県の地域は母数が多いため、過疎地域に比べればまだ恵まれているということであった。そして近年の教員養成系大学卒業者を見ていくと、卒業時に教員免許を保有している割合は約40%ほどになっていることが明かされた。通称「ゼロ免課程」と呼ばれ、教育学に関しては学習するが教員免許を取得せずに卒業する大学生が増えているということなのである。それだけ教員免許を取得するハードルが高くなっていることや、他にも配属先が決まるまでに時間がかかる、公務員の給料は下がり続けている、そもそものイメージが悪い等の理由で教員を目指す人間が減っているのではないかと、という分析がなされた。

どうするんだ、県教委!

抽象的な働き方改革を唱えているだけでは、教員志望者は増えていかない。どうやったら教職の魅力を伝えられるのか、具体的な働き方改革はまず何をしたらいいのか、県当局は今こそ私たちくじらの組合と徹底的に討論すべきである。

大会は第一号から第四号まですべての議案が承認され、無事終えることができた。炎天下、お集まりいただいた皆さん、お疲れさまでした。期末考査前ということもあり、今回は参加できなかった方も次回こそはご参加いただき、皆で討論しましょう！

巨星墜つ

6・25 沖松信夫さんを偲ぶ会

私たち埼玉高教組が進むべき方向を指し示してくれた恒星がまた一つ光を消した。沖松信夫さん(享年97歳)が1月29日に逝去され、氏が長く代表幹事を務めた日中友好元軍人の会を受け継ぐ日中友好『8・15』の会主催で、6月25日(土)にさいたま共済会館で偲ぶ会が開かれた。当日は異例の猛暑の中、生前親交のあった多くの方たちが集まった。

1925(大正14)年広島県呉市に生まれた沖松さんは当時最もエリートコースとされた陸軍士官学校に入校(第57期、校長は沖縄戦で自決した牛島満)、1945(昭和20)年重爆撃機の隊長として特攻訓練を受け、8月15日に熊谷陸軍飛行学校を離陸し熊本県健軍飛行場で給油後に沖縄の米軍に特攻する事を命じられた。しかし、14日出撃延期が知らされ15日正午の「玉音放送」で出撃中止、奇跡的に一命を取り留める。復員後、東京大学法学部に入学・卒業し、公職追放解除後の1952(昭和27)年より熊谷高校定時制(熊定)に社会科教諭として赴任し、1997(平成9)年に講師退職するまで45年間熊定一筋の教員人生を送られた。

その間、職場闘争を基礎とする原則的な組合運

動の先頭に立ち続け、1959(昭和34)年～1962(昭和37)年には埼玉県高等学校教職員組合中央執行委員長を務めた。

頭脳明晰にして理路整然とした人物にありがちな冷たさは一切なく、常に穏やかに微笑しているかのような風貌はまさしく大人(たいじん)であった。熊定で共に職場闘争を闘った方々や高教組運動で沖松さんと関わった方々で、彼を師としてまたは第二の父として慕うくじらOB・OGは数多い。

劇的な人生を歩んだ沖松さんだが、自らの戦争体験を話されるようになったのは晩年になってからだ。戦地に赴いた先輩たちが次々亡くなっていく中で、「実戦経験」はない自分が語り継いでいくしかないと思われ、決意されたからだと思われる。沖松さんが講演の資料として多用されたのが、小学校卒業時に書いた「吾が志望」という作文だ。その作文に担当教師はどのようなコメントを書いたのか？そこからは皇国教育の非人道性がハッキリとわかる。

沖松さんが2021年日教組平和集会で講演された内容がDVD(本部に在庫・45分で授業でも使いやすい)化されているので、是非視聴されたい。



最近、洗い物をする機会が増えた。以前から多少やってはいたが、このところ毎日のように鍋やら釜やらボウルやらを洗っている。連れ合いの帰りが遅いのと、息子の高校入学を機に、自分と息子の分の弁当を作るようになったためである。▼洗い物で思い出したが、若い頃、初めて購入した新車は手洗いすると決めていた。洗車場に行くと、きまっ



て楽しげに洗車をするカップルを見かけた。その様子を横目に見て、カノジョができれば絶対一緒に洗車するっ！と拳を固め、一人ワックスがけに勤しんだものだった。▼やがて念願のカノジョができ、一緒に洗車に行くチャンスが巡ってきた。だが、なぜだか洗車場で直接待ち合わせることになり、約束の時間に彼女も車でやってきた。そして、自分の車も洗いたいと言う。ところが、道具も無いし、自分で洗ったこともないから洗いかも知らないとのこと。結局、手伝ってはもらったが、

(T. S)